

## 「水資源と男女共同参画に関するアンケート」最終報告

水資源・地域プロジェクト課では、水資源の確保と水道水の供給に関して、県民の皆様安心してお使いいただける水を、安定的に供給することに心掛けており、今後の施策の参考とするため、水資源に関するアンケートを実施しました。

また、男女共同参画・NPO課では、一人ひとりが性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる男女共同参画社会の実現に向けて、女性の活躍推進の取組を効果的に進めるため、男女共同参画に関するアンケートを実施しました。

結果、870名の方からご回答をいただきました。アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆さんにはお礼を申し上げますとともに、その結果について下記のとおり取りまとめましたので、ご報告いたします。

### (1) アンケート実施期間

平成29年1月25日(水)～2月10日(金)

### (2) アンケート回収状況

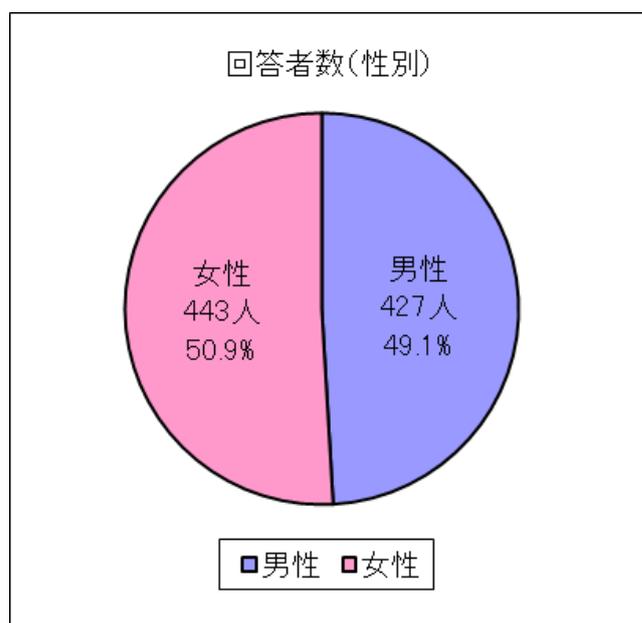
対象者数 1,360人

回答者数 870人

回答率 64.0%

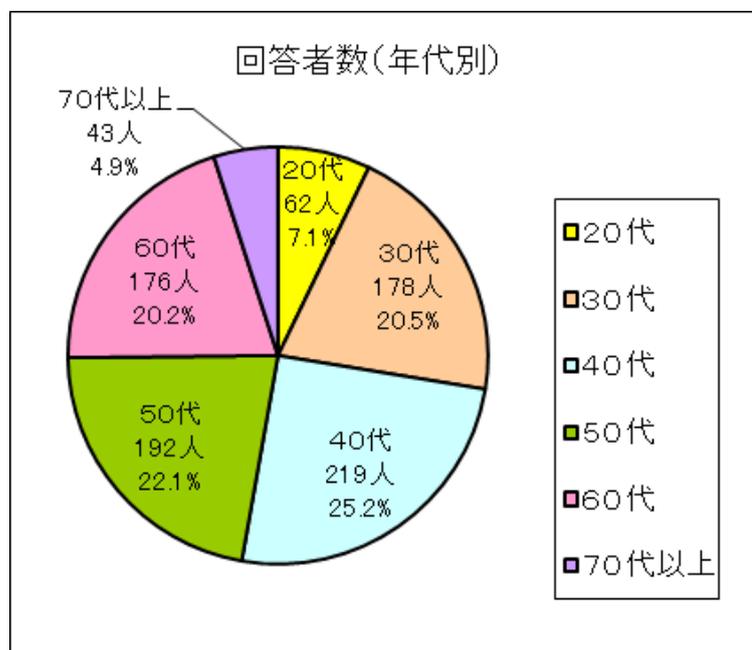
### (3) 回答者属性 (人)

| 【性別】 | 男性    | 女性    | 計      |
|------|-------|-------|--------|
| 回答者数 | 427   | 443   | 870    |
| 構成比  | 49.1% | 50.9% | 100.0% |



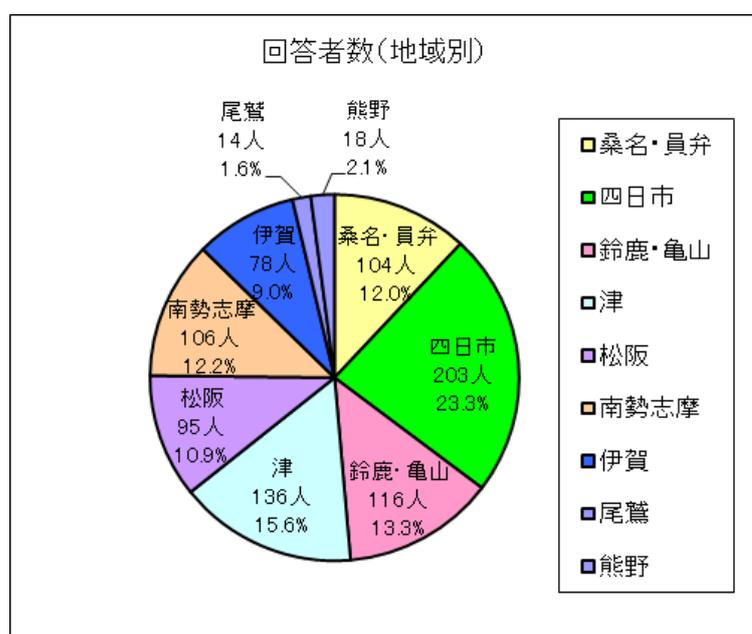
(人)

| 【年代別】 | 20代  | 30代   | 40代   | 50代   | 60代   | 70代以上 | 計      |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 回答者数  | 62   | 178   | 219   | 192   | 176   | 43    | 870    |
| 構成比   | 7.1% | 20.5% | 25.2% | 22.1% | 20.2% | 4.9%  | 100.0% |



(人)

| 【地域別】 | 桑名・員弁 | 四日市   | 鈴鹿・亀山 | 津     | 松阪    | 南勢志摩  | 伊賀   | 尾鷲   | 熊野   | 計      |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|--------|
| 回答者数  | 104   | 203   | 116   | 136   | 95    | 106   | 78   | 14   | 18   | 870    |
| 構成比   | 12.0% | 23.3% | 13.3% | 15.6% | 10.9% | 12.2% | 9.0% | 1.6% | 2.1% | 100.0% |

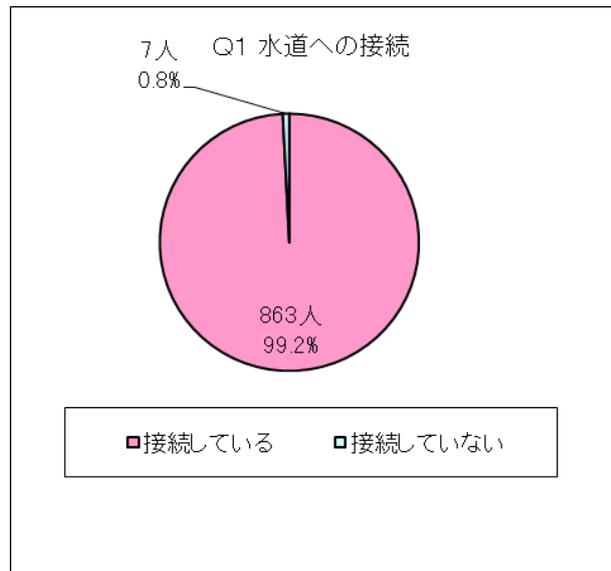


#### (4) アンケート集計結果

##### Q 1. 水道への接続

「あなたの現在のお住まいは水道（市町や民間が設置したもの）に接続されていますか？」

水道への接続は 99.2%・863 人の方が接続しています。三重県の水道普及率が 99.6% ですので、ほぼ同じ様な傾向を表しています。

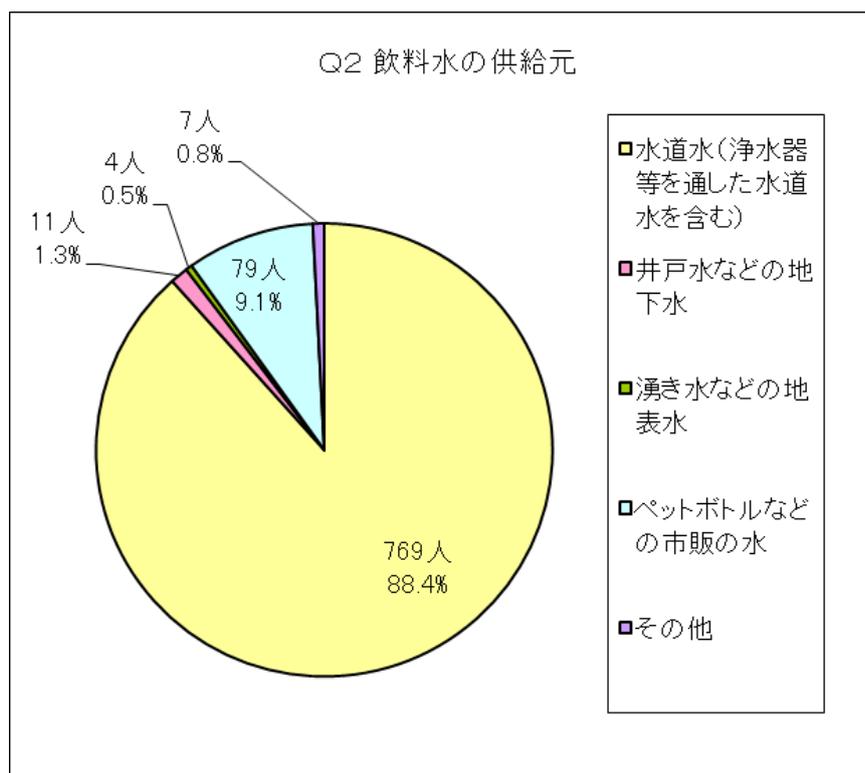


##### Q 2. 飲料水の供給元

「あなたがご家庭で主にお使いの飲料水（調理用、飲用）を教えてください？」

〈水道水〉との回答が 88.4%・769 人であり、ほぼ 9 割の方が飲料水として水道水を使用しています。

また、〈ペットボトルなどの市販の水〉との回答が 9.1%・79 人であり、約 1 割の方は市販の飲料水を購入しています。

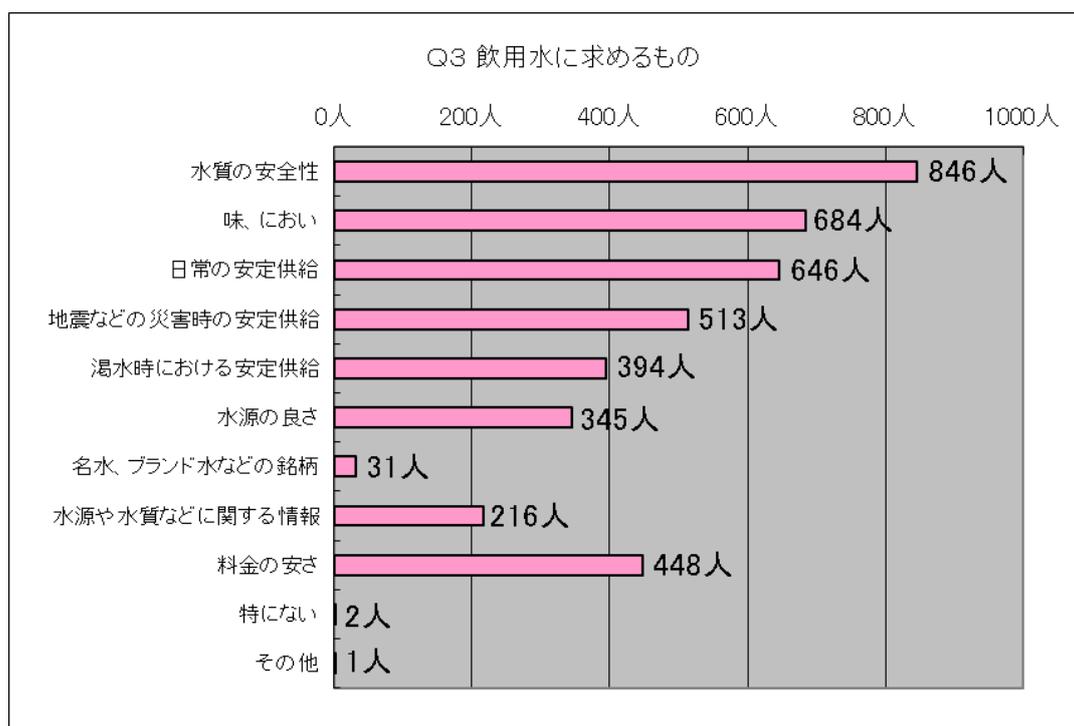


### Q 3. 飲料水に求めるもの

「あなたがお使いの飲料水に求めるものはどのようなことですか？」  
(複数回答可あり)

回答者 870 人の内 97.2%・846 人の方が〈水質の安全性〉と回答しています。

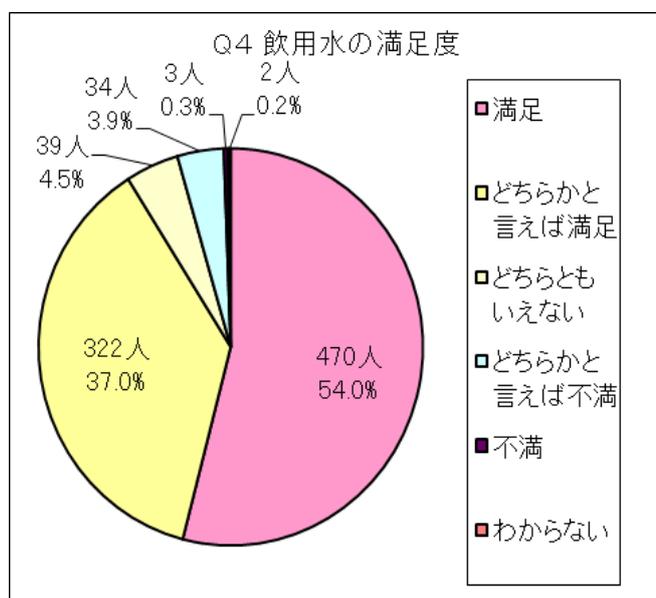
次に〈味、においの良さ〉に 78.6%・684 人、〈日常の安定供給〉に 74.3%・646 人、〈地震などの災害時の安定供給〉に 59.0%・513 人、〈料金の安さ〉に 51.5%・448 人、〈湯水時における安定供給〉に 45.3%・394 人、〈水源の良さ〉に 39.7%・345 人、〈水源や水質などに関する情報〉に 24.8%・216 人の方が回答しています。



### Q 4～Q 5. 飲料水の満足度

「あなたがお使いの飲料水は、安定的に供給され、安心して使えますか？」  
(満足度としてお答えください。)

〈満足〉との回答が 54.0%・470 人、〈どちらかと言えば満足〉との回答が 37.0%・322 人であり、これらを合わせると回答者の 91.0%を占めています。



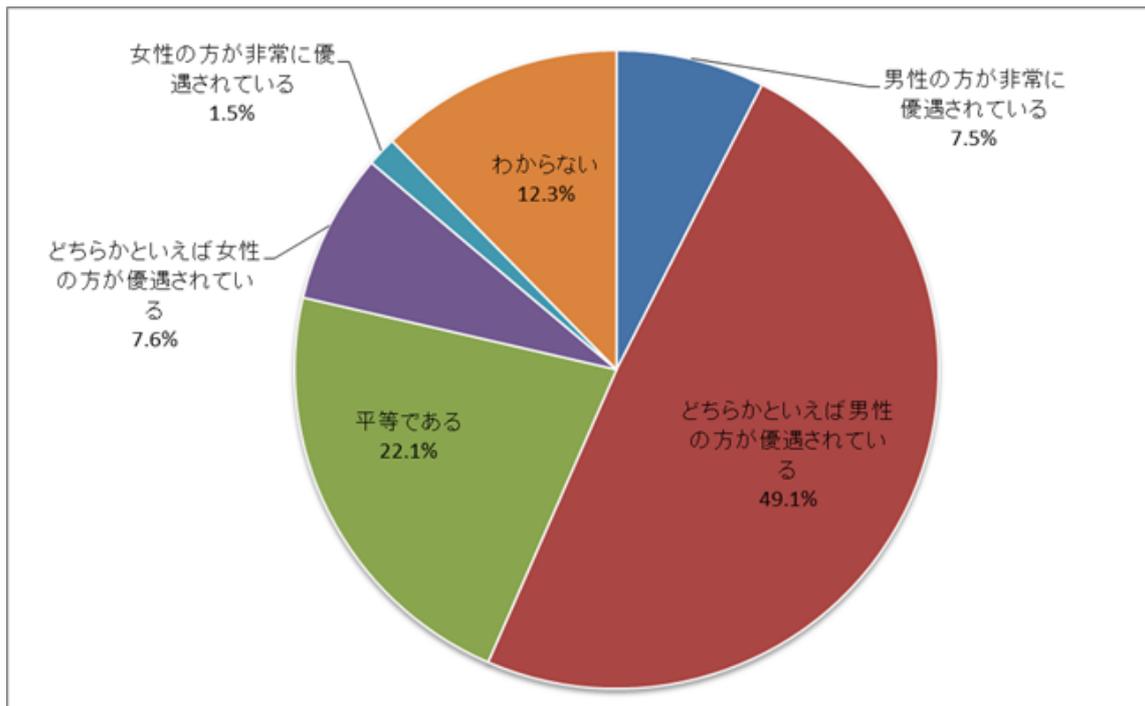
また、「不満」との回答は0.3%・3人、「どちらかと言えば不満」との回答は3.9%・34人であり、これらを合わせると回答者の4.3%となります。

なお、「不満」、「どちらかと言えば不満」と回答された方に対し、その理由をたずねたところ、主な自由意見は「料金が高い」、「塩素くさい」、「美味しくない」でした。

Q6～Q7は、社会全体における男女平等についての設問です。

**Q6. 男女平等について（社会全体）**

あなたは、社会全体で、男女の地位が平等になっていると思いますか。



「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方の割合は56.6%、「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答された方の割合は9.1%となっています。

また、「平等である」と回答された方の割合は22.1%となっています。

「平等である」、「わからない」以外の回答された方に対し、優遇されていると考える理由をたずねたところ、主な自由意見は次のとおりでした。

（「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）

- ・家事や育児は女性が担って当たり前という風潮だから。
- ・子育て期間中に学校行事等で女性の方が仕事を休むことが多いと思う。
- ・男性上司が多い。男性の方が早く昇進している。 など

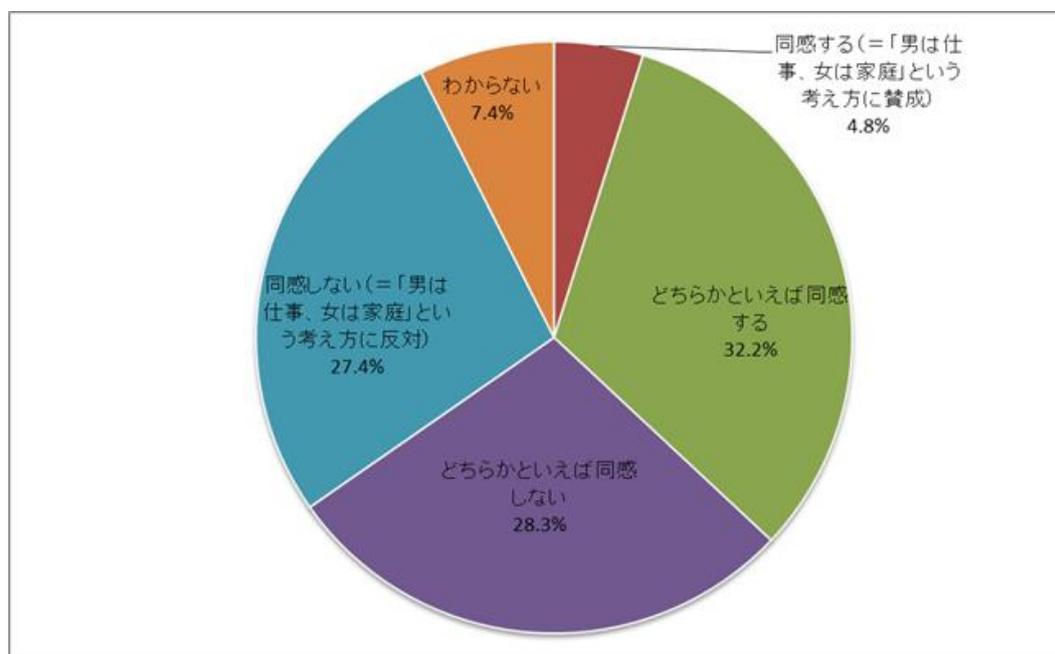
（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）

- ・女性の方が勤務時間等で融通がきいている方が多い。
- ・女性は育休を取りやすく、男性は非常にとりづらい社会になっている。 など

Q 8 は、固定的役割分担意識や性別意識についての設問です。

Q 8. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。



「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同意しない(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)」、「どちらかといえば同意しない」と回答された方の割合は 55.7%と半数以上となっています。

Q 9 は、男女共同参画の推進についての設問です。

Q 9. 男女共同参画の推進について

今後、男女共同参画を推進していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(2つまで回答可)

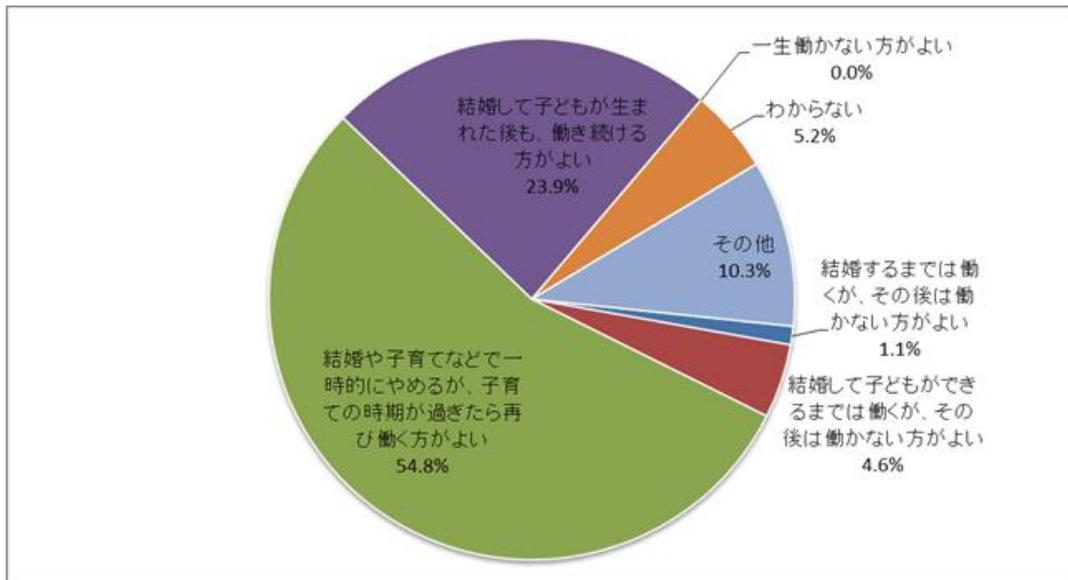
|                   |            |       |
|-------------------|------------|-------|
| 合計                | 1576 (870) | %     |
| 女性の意識改革           | 229        | 26.3% |
| 男性の意識改革           | 416        | 47.8% |
| 女性の家事・育児の負担軽減     | 210        | 24.1% |
| 男性の家事・育児への参画      | 254        | 29.2% |
| 長時間労働の是正          | 276        | 31.7% |
| 女性が自らの能力を高める機会の提供 | 95         | 10.9% |
| 女性の参画を進める必要はない    | 24         | 2.8%  |
| わからない             | 27         | 3.1%  |
| その他               | 45         | 5.2%  |

今後、男女共同参画を推進していくために必要なことについては、「男性の意識改革（47.8%）」、「長時間労働の是正（31.7%）」、「男性の家事・育児への参画（29.2%）」を選んだ方の割合が高くなっています。

Q10～Q11は、女性の働き方についての設問です。

**Q10. 女性の働き方について（考え方）**

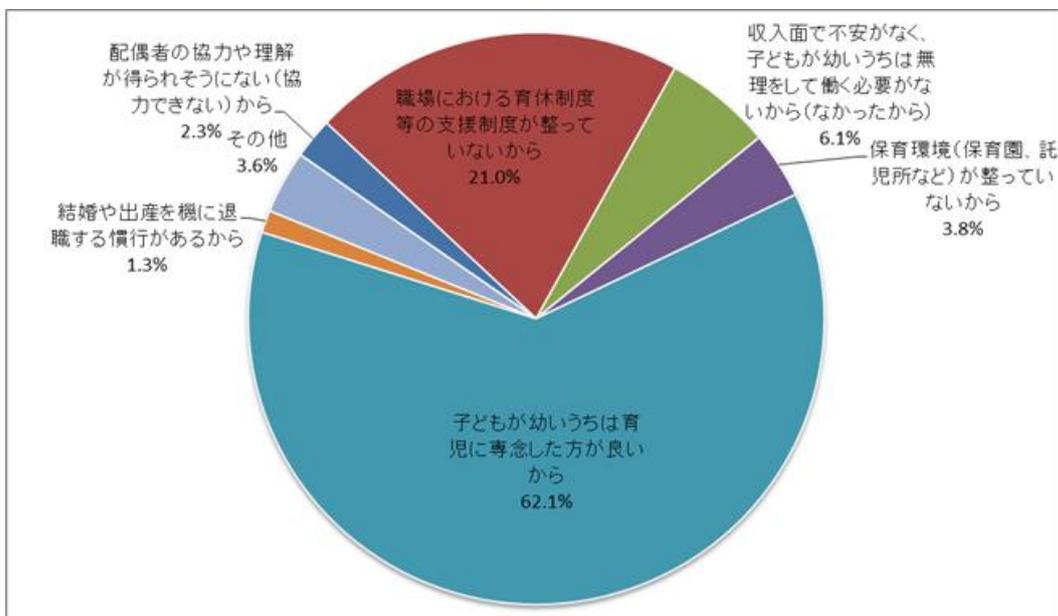
あなたは、女性が働くことについて、どのようにお考えですか。



女性の働き方（考え方）について「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び働く方がよい」と回答された方の割合が 54.8%と最も高くなっています。

**Q11. 女性の働き方について（理由）**

Q10で「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び働く方がよい」を選択された方におたずねします。なぜ、そのように考えますか。



Q10で「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び働く方がよい」と回答された方に対し、その理由をたずねたところ、「子どもが幼いうちは育児に専念したいから（専念した方がよいから）」を選んだ方の割合が、62.1%と最も高くなっています。